

が大切である。この計画は学級担任が学級の独自性を生かし、創意工夫して作成するものである。そこで、この計画が生き働く計画となるためには、次の点をおさえる必要がある。

- (1) 教師の個性や児童生徒の実態を生かす計画として、
 - ア、学級における児童生徒の実態
 - イ、学級における道德教育の基本方針
 - ウ、各教科、特別活動における道德教育の概要
 - エ、生徒指導における道德教育の視点
 - オ、学級生活における豊かな体験の計画
 - カ、学級における教育環境の整備
 - キ、基本的な生活習慣に関する指導計画
 - ク、他の学級・学年及び家庭、地域社会との連携にかかわる内容と方法
- (2) 年間指導計画に取り上げられている重点内容や資料が生かされるように計画する。
 - 男女の協力を伸ばしたいときは男女の協力を柱にするなどの計画
- (3) 各教育活動が道德の時間とどのようにかわるか具体的に示す。
 - 心に響く体験をさせたいとき

は栽培活動や勤労的活動などを位置づけた計画
(4) 教室の整備や学級内の人間関係の充実を図る方法を具体的に計画する。

- 児童生徒の誕生日一覧表の揭示を利用し、誕生日の感想や話し合いを通じ人間関係を深めるなどの計画
- (5) 家庭や地域社会との連携をどのように図るか具体的に計画する。
 - 授業参観での道德の時間の公開や「学級通信」で、担任が道德教育の啓発を図るなどの計画
- (6) 学校行事や学年行事でどのような道德性を育てるか計画する。
 - 郷土史家やお年よりからの話を聞く活動などの計画

三、児童生徒主体の道德の工夫

道德の時間は、道德教育の目標の実現を目指し、計画的、発展的な指導を通して、各教科や特別活動における道德教育の「補充、深化、統合」を図ることにあつた。そのねらいは、この時間を通して児童生徒の道德的実践力を高めることを目指している。このことは、道德の時間は「自己を見つめる時間」であるという言葉に端的に表現されている。このような道德の時間は、年間三十五時間

しか教育課程に位置づけられていない。そのために、道德的価値の押しつけや表面的な指導になりがちである。これらの弊害におちいらなために、いかに児童生徒主体の授業を工夫していくことが求められる。そのためには、次の点をおさえることが大切である。

(一) 指導過程の工夫

道德の時間の指導が成立するためには、次の二つの要件を満たす必要がある。

- ① ねらいとする道德的価値を資料を通して追求し、より高められた価値として把握すること。
- ② より高められた価値観に照らして、今までの自分はどうであつたかを見つめること。

指導過程を固定的に考えると深まりのある授業にならない。決められた指導過程を道德の時間内ですべてやろうとしないで、帰りの学級の時間や家庭での時間、次の朝の学級の時間等、事前、事後の時間も含めた指導過程をも今後は考え弾力的に取り組んでいく必要がある。この方法で授業を展開していくためには、資料やねらい、指導方法、児童生徒の実態を十分考慮して、指導過程を工夫していくことが大切である。
- ③ 読み物は共通思考や感動を与えるのに効果的である。教師の感情をこめた読みや語りかけは、登場人物に児童生徒が感銘を受ける。
- ④ 郷土資料や体験活動との関連を図る指導は、児童生徒の理解を確かなものにする。体験のない授業はからまりし、生涯において生きて働く力になり得ないものである。

おわりに

道德教育を充実させるためには、児童生徒主体の道德教育を一層推進することが大切である。しかし、教師自身が主体的でなければその効果は望めない。各学校において、文部省の指導資料等や次の実践例を参考にして道德教育が一層充実するよう期待している。